現地説明会のようす（紙筒を立てて柱位置を表示）

した。調査部一同、心より感謝しております。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部　市　大樹）

藤原宮朝堂院の調査（飛鳥藤原第120次）

8月末、5ヶ月間に及んだ調査がようやく終了しました。場所は藤原宮朝堂院地区の一郭です。朝堂東第二堂と呼ばれる建物と東面回廊について検証するのが、今回の調査の主な目的でした。この場所は戦前、日本古文化研究所によって部分的な発掘が行われていますので、建物規模などの大枠はわかっています。そのため「改めて調査をする必要があるのか」という声も聞こえなくはありませんでした。

しかし、やはり発掘はやってみるものです。古文化研究所は発掘成果にもとづいて、東第二堂を桁行15間、梁行4間に復元していました。ところが、今回改めて全面的な発掘をしたところ、実は梁行5間であったことが判明しました。東第二堂は、孫庇が朝庭部分に張り出すという、これまでに例のない特異な構造をもっていたのです。

また東第二堂は基壇をもつ瓦葺き礎石建ちの建物でありながら、床を貼っていた可能性も、今回の調査で新たに浮上してきました。

ともに、これまでの「常識」をくつがえす重要な成果といえます。しかも、これらの点がわかったのは現地説明会の少し前のことでした。なかでも梁行5間という知見は、現地説明会のわずか3日前に得たものです。全く冷や汗ものでした。

7月20日の現地説明会では、猛暑にもかかわらず500名近い人が集まり、熱心に耳を傾けてくれま